

志木市新市庁舎の建設に向けた準備を進めています

問合せ／政策推進課 内線 2 2 1 7

建築後45年を迎える現市庁舎は、耐震診断の結果、防災拠点に求められる耐震判定指標（Is値）の0.75を大幅に下回り、震度6～7の規模の地震に対し「倒壊または崩壊の危険性が高い」ことが判明しています。このようなことから、市庁舎の耐震性能の確保に対する議論を庁内外で進め、「志木市新庁舎建設基本計画」を策定しました。現在、「基本計画」の理念や地域特性、周辺環境との調和などを十分理解し、“志木らしさ”を取り入れた新庁舎建設に伴う設計者を選定することを目的とし、設計業者の選定を行っています。

市庁舎は、市民生活に欠かすことのできない行政情報を保持し、多数の市民の皆さんが利用する建物であるとともに、災害時には、防災対策活動の指令本部となる重要な建物であることから、平成34年度の完成を目指し、新市庁舎建設に向けた準備を進めていきます。

志木市庁舎	Is値
事務棟	0.16
議場棟	0.12



庁舎内の壁のひび割れ

建替えは現用地で行います

建設は現在の敷地で行い、規模を10,000㎡程度と想定し、事業の総額の上限を70億円とします。さらに、設計を進める中で、華美や無駄を省きながら事業費の抑制を図ります。

新市庁舎建設の5つの方向性と基本理念

1 小さなまちの立ち寄りやすい新市庁舎

志木市は全国でも6番目に小さなまち。徒歩や自転車などでも簡単に市庁舎を訪れることができるのは、大きなまちとは違う志木らしい特徴の一つです。小さなまちの特徴を活かした市民が立ち寄りやすい新市庁舎をつくりまします。

2 高齢化や世代変化に対応できる新市庁舎

志木市の人口構成の特徴は、団塊世代とその子ども世代の団塊ジュニアが多いことにあります。今後の高齢化の進展とともに、その後は団塊ジュニアの人口構成に比重が移動していきます。

また、志木市人口ビジョンによる将来展望も視野に入れながら、人口構成の変化により市民ニーズが変わることで行政サービスも変化して行くことから、時代の変化に柔軟に対応できる新市庁舎をつくりまします。

3 効率的で経済的な新市庁舎

志木市はベッドタウンとしての性格が強く、特に大きな産業がありません。今後の高齢化の進展など、時代の変化に伴う財政的な負担を考慮するとともに、ライフサイクルコストを意識した志木市の身の丈に合った新市庁舎をつくりまします。

4 志木市の自然環境を活かした新市庁舎

志木市は、荒川や新河岸川、柳瀬川の3本の川が流れるまちです。自然災害への十分な配慮をするとともに、舟運で栄えた市の歴史や自然環境を活かした新市庁舎をつくりまします。

5 市民力が活かされ、職員の可能性を引き出せる新市庁舎

市民・議会・職員との協働の機会を増やし、同時に職員は仕事がしやすく、市民力を十分に活かすことができる新市庁舎をつくりまします。

《基本理念》 小さなまちの特徴と市民力が活かせる、充実した機能が確保された「スマート」で「コンパクト」な市民に親しまれる市庁舎の建設を目指します

新庁舎建設までのスケジュール

